



令和6年度後期企画展 生きものたち

みやじま 中うが
宮嶋結香展
2024. 8/31sat.
→ 11/24sun.

じっと考える?眠っている?何かを語りかける? 感情を揺さぶる生きものたちの魅力満載

宮嶋結香さんは、福島県出身、東京都在住の画家・版画家・イラストレーターです。関東圏を中心に全国各地で個展やグループ展を重ね、季刊誌や文芸図書、企業広告等に作品が採用されるなど、幅広い活動が評価されている実力作家です。形象をシンプルに省略する独特の表現技法で描か



Twin owls [リトグラフ]

れた動物や鳥などの生きものたちは、ユーモラスであり、ちょっぴり愁いを帯びた表情にも感じられます。生きものたちからのメッセージは多様なとらえ方ができ、幅広い世代間で自由な感性の交換ができる作品群とも言えます。



初期のエッチング作品も展示 作品の解説をする宮嶋結香さん

宮嶋さんは普段、定形にとらわれない紙の形や材質を生かした絵画作品や、リトグラフやエッチング、モノタイプといった版画技法を用いた作品などを制作し、様々な画材の工夫を楽しみながら創作活動を展開しています。

また、各地でワークショップも開催し、未就学児や小中学生と素材体験を含めた造形活動の面白さを共有するなど精力的に活動しています。

美術館やギャラリーだけではない、日常に近い空間におけるアートとのかかわり方を常に模索しながら宮嶋ワールドは今後も展開していくことでしょう。本展を機に、「わたしとアートとの距離」をぐっと近づけていただきたいものです。

中期企画展
融通無碍 カミムラコーイチ展
を終えて

表現の形式にとらわれない、自由で多彩な作品群で館内を彩ったカミムラコーイチさんの企画展が8月25日に終了しました。鑑賞者にアートの新しい魅力を示す貴重な機会だったのではないのでしょうか。会期中、作家本人と来館者とが対話交流する機会も設けました。専任研究員による中高生を対象とした「深掘り鑑賞会」を2回行い、そこでは作品解説に熱心に聞き入る生徒たちの熱心な姿が印象的でした。カミムラさんが会のために持参してくださった手描きのデザイン原画も好評で、近づいて見入る生徒たちはその緻密な線描や彩色の妙に感心しきりでした。

鑑賞会参加生徒の感想

- ◆ 和紙の良さがよくわかりました。線香で穴を開けているところがとても魅力的だし、面白いなあと思いました。(中学生)
- ◇ 絵画はどこからかパッと生まれるのではなく、どこかにヒントがあることがわかった。(中学生)
- ◆ 美術館で観る作品も毎回違った印象を受けたりするので楽しい。(高校生)
- ◇ 絵の具だけでなく葉っぱを貼ったり和紙を重ねたり、穴を開けて二次元を三次元にするなど今までの私の頭の中のない考えが新鮮で面白かった。(高校生)
- ◆ 誰かの作品に囲まれていると、その人がかけた時間と向き合っている感じがする。(高校生)



インターンシップ 高校生2名奮闘

7月17日、18日の2日間、県立北上翔南高等学校2年生の生徒2名がインターンシップ生として美術館業務の体験をしました。作品鑑賞や解説訓練、イベントの企画を体験し、実際の展示作業も手伝ってもらいました。実物の作品を用いての実習ではちょっと緊張していたようですが、楽しみながらも一生懸命業務に取り組んでいる様子がみられました。

今年度の絵画教室が終了しました

10回にわたる講習を終えて利根山光人記念美術館絵画教室が終了しました。少人数ながらも熱心に取り組んでいただきました。以下、受講生の感想です。

- ◆ ボケ防止という軽い気持ちと、嫌いでない絵画だったのですが、壁が高く頭を抱え込む日々が続きました。でも、もう少し頑張りたいという気持ちも湧いてきました。とても素晴らしい出会いでした。
- ◆ 水彩画を学びたいと受講しましたが、紹介していただいた展示会に行くうちに油彩にも興味を持ちました。ちゃんと仕上がるのか不安になりながらも、上手に描こうというより自分の見ているもの、感じ取ったものを表現しようと思うようになり楽しくなりました。



利根山光人記念美術館 絵画教室修了展 9月21日~10月4日

修了生の作品に講師作品、利根山光人作品を加えた計7点の絵画を展示します。会場は北上駅前おでんせプラザぐろーぶ3階にある生涯学習センターミニギャラリーです。たくさんのお越しをお待ちしています。

~@TONE美~

連載新シリーズ

専任研究員 菊地 仁美

パブリックアート考

① 聖徳学園の「生命の樹」

利根山光人画伯は日本屈指の壁画作家でもある。メキシコの民俗や風土、古代の遺跡に心酔していた利根山はメキシコ革命以降の壁画運動にも大いに関心を示し、これを導く芸術家たちの精神に感動している。メキシコの文化や民俗芸能、美術の紹介に尽力したことは周知のとおりであるが、日本各地に制作した多くの大壁画こそ、メキシコの精神が生かされたライフワークだったと言える。

北上駅舎には西口改札上部に「日輪」というタイトルの縦3.5×横18mの大陶壁画が設置されている。展勝地の石片も一部含んだ粘土が使用され、陶芸家の雲雀民雄氏が陶板を制作して1987(S57)年に完成した。

また、千葉県松戸市の東京聖徳学園は幼稚園から大学までの一貫教育を目指した学園であるが、理想的な教育環境づくりの一環として有名な芸術家たちの作品がいたるところに設置されている。利根山の壁画も校舎内外に40数点設置されていて、図録を見るとそのラインナップは本当に豪華ですばらしい。特にも目を引くのが「生命の樹」という縦16×横12mの作品で、あまりの大きさに天井につかえてしまい、学長の大英断で建物の屋根部の改修によって設置されたというのは有名なエピソードである。



生命の樹 聖徳大学附属小学校HPより転載(許可済み)

なんとも芸術家冥利に尽きる話であるが、公共のスペースにこうしたオブジェや壁画など、いわゆるパブリックアートが設置され鑑賞できるのはかなり恵まれていて貴重なことかも知れない。

コロナ禍で多くの人がマスク姿で行動しだしたある日、東京都心部の美術展巡りから足を延ばして横浜駅に向かった。ここには利根山光人作「太陽と子ども」というタイトルの大陶壁画(4×15m)があり、東西自由通路完成記念として1982年に制作されたというから一度見てみたいと考えていた。中央に輝く太陽と星、右手に星と星座と羅針盤、左に母子像を配した色鮮やかでダイナミックな作品と紹介されていた。北上の「日輪」にも匹敵する大陶壁画であろう、ぜひ鑑賞したいと心躍らせて向った横浜駅だったがその期待は裏切られることになる。(次回に続く)

発行 北上市まちづくり部生涯学習文化課
〒024-0061 岩手県北上市大通り1-3-1
電話 0197-72-8304 FAX 0197-63-3121

利根山光人記念美術館
●開館時間 10:00-16:00
(最終入館は15:30まで)